

3

豊中市の都市イメージ

住みたい街(駅)ランキングで千里中央が順位上昇で3位、豊中が14位

【住みたい街(駅)ランキング】

順位	駅名(2014年)	駅名(2015年)
1	西宮北口	西宮北口 (→)
2	梅田	梅田 (→)
3	江坂	千里中央 (↑)
4	岡本	神戸三宮 (↑)
5	千里中央	岡本 (↓)
6	なんば	夙川 (↑)
7	夙川	宝塚 (↑)
8	神戸三宮	江坂 (↓)
9	御影	御影 (→)
10	天王寺	なんば (↓)
11	芦屋川	天王寺 (↓)
		芦屋川 (→)
12	高槻市	-
13	宝塚	高槻市 (↓)
14	心斎橋	豊中 (↑)
15	六甲	茨木市 (↑)
16	緑地公園	緑地公園 (→)
17	桃山台	伊丹 (→)
18	伊丹	心斎橋 (↓)

順位	駅名(2014年)	駅名(2015年)
19	嵐山	本町 (↑)
		桃山台 (↓)
20	本町	-
21	豊中	草津 (↑)
22	草津	桂 (↑)
		北山 (↑)
23	高槻	-
24	新大阪	神戸 (↑)
25	中津	箕面 (↑)
26	京都	烏丸 (↑)
27	河原町	六甲 (↓)
28	西宮	河原町 (↓)
		樟葉 (↑)
29	姫路	-
		西宮 (↓)
		芦屋 (↑)
		枚方市 (↑)
30	京橋	学園前 (↑)
		京都 (↑)
		姫路 (↓)

	2014年	2015年
調査機関	2014年1月30日(木)～2014年2月2日(日)	2015年1月23日(金)～2015年1月27日(火)
調査方法	インターネットによるアンケート調査 ※「住みたい街(駅)」の回答は、沿線を選んだ後、駅を選んでもらう選択方式。 ※「住みたい街(駅)」の対象駅は、以下の都府県に所在する駅を対象としています。 関西編：2府4県(大阪府、兵庫県、京都府、奈良県、滋賀県、和歌山県)	インターネットによるアンケート調査 ※「住みたい街(駅)」の回答は、沿線を選んだ後、駅を選んでもらう選択方式。 ※「住みたい街(駅)」の対象駅は、以下の都府県に所在する駅を対象としています。 関西編：2府4県(大阪府、兵庫県、京都府、奈良県、滋賀県、和歌山県)
調査対象	関西圏(大阪府、兵庫県、京都府、奈良県、滋賀県、和歌山県)在住の20歳～49歳の男女	関西圏(大阪府、兵庫県、京都府、奈良県、滋賀県、和歌山県)在住の20歳～49歳の男女
有効回答数	総計2100名 ※シングル、DINKS、ファミリー各700名(うち男女各350名)	総計2100名 ※シングル、DINKS、ファミリー各700名(うち男女各350名)
調査機関	株式会社マクロミル	株式会社マクロミル

出典：不動産・住宅サイト SUUMO(スーモ)

これまでの市による先行研究（1） （「とよなか都市創造研究所」調査より）

調査概要

- ◆豊中市の地域イメージに関するインターネットアンケート調査（平成23年度）
 - 調査対象等：豊中市民500人、池田・箕面・吹田市民500人（インターネット調査、回答率100%）
 - 調査内容：豊中市に対して抱いているイメージ等
- ◆豊中市の活力・魅力づくりに関するアンケート調査（平成24年度）
 - 調査対象等：豊中市民2,000人（郵送調査、回答数593人（29.65%））
 - 調査内容：望ましいまちづくりのブランドコンセプト等
- ◆豊中市の活力・魅力づくりに関する市内事業者及び市関係各部局管理職へのヒアリング（平成24・25年度）
 - 調査対象等：市内事業者5人、学識経験者1人、市関係各部局管理職7人

	キーワード	イメージ・評価	アイデア・気づき・方向性
生活環境	緑	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近に公園や緑がある ・ 美しい公園や自然がある ・ 服部緑地は豊中市の地域資源として圧倒的な支持がある ・ 7割超の市民が「豊中市は緑が豊かである」と認知 	<ul style="list-style-type: none"> ・ もっと豊中市の緑をアピールするためのイベントなどに活用すべき
	子育て・教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育てしやすい環境がある ・ 教育機関が充実している ・ 安心・安全なまち 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文教都市から脱却・昇華したブランドコンセプトが必要
	交通インフラ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通利便性が高い ・ 空港のあるまち 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空港就航都市と連携 ・ 大阪国際空港を活かした事業を展開 ・ 各地の都市との交流を盛んに
	住宅都市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内外から「良好な郊外住宅都市」のイメージ ・ 地域ごとに異なる魅力が存在 ・ 居住費や家賃が高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住宅都市から脱却・昇華したブランドコンセプトが必要 ・ 地域ごと(千里中央、豊中、庄内など)の特色を出してみたらどうか ・ 「都市での良質な暮らし」や「生活」、「ライフスタイル」そのものに着目すべき
文化資源	グルメ・店舗	<ul style="list-style-type: none"> ・ おいしいお店が集まるまちとして、市内外の幅広い世代にブランド資源として認知 ・ 魅力的、個性的なお店が集まるまち ・ ロマンチック街道 ・ 豊南市場 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 料理店を中心としたネットワークの活用 ・ 「庄内バル」では、来場者がまちを回遊し、店と客のコミュニケーションもでき、リピーターの確保にもつながっていると、運営側・参加店舗ともに高評価 ・ 周辺市との連携の可能性 ・ 店舗に個性や魅力がなくなっているのでは
	クリエイティブ（創造性）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽あふれるまち ・ 豊中まちなかクラシック ・ 多彩な人材が活躍するまち ・ 若者が元気なまち 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「豊中まちなかクラシック」は市外からの来場者も多く、日常観光として期待できる ・ 周辺市との連携の可能性 ・ 類似事業の有機的結合 ・ 創造都市(クリエイティブシティ)を訴求したらどうか。音楽・芸術・アートによるまちづくり ・ 音楽や芸術だけではなく、ライフスタイルや住まい方なども含めてとらえれば、豊中の充実した暮らしぶりなどを付加価値として発信していけるのではないか ・ 豊中市在住で、創造的活動に携わっている人たちを巻き込めていない
	コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族や友人との絆を感じられる ・ 人の温かさを感じられる ・ ストレスの少ない生活ができる ・ 人とのふれあいを感じさせる ・ 市民力、地域力が高い(公民分館活動など、古くから地域活動や社会教育が盛ん) ・ 密接な近所づきあいがある ・ 身近なネットワークが魅力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化活動やボランティア活動など、様々な市民活動が盛んなことを打ち出す ・ 市民力が育てる都市をアピールすることができれば、1つのブランドになる ・ 豊中は、民度が高い、匠の技を育む、人を育てるまち、様々な知的刺激を受けることができるまち。人材の多彩さも考慮すれば、生活文化を創造するまちである ・ 豊中市民はふるさと納税が多く、自分の住むまちに対する愛着や誇りが高い ・ 豊中まつり等は重要な地域資源
その他	全体	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校野球をはじめとする高校スポーツ発祥地というイメージは豊中市の重要な地域資源 ・ 豊中なりの特色をうまく言葉に変換できていない。それを表現できれば、ブランドとして打ち出せるのではないか。

これまでの市による先行研究（2）

【H24 研究】

人口動態の量的把握

《全体》

- 出生者数減少、死亡者数増加、自然増の幅は縮小
- 転入者数、転出者数共に減少、社会増となる年度もある

《年代別》

- 20～30 歳代で転入超過傾向
- 40～60 歳代で転出超過傾向

《地域別》

- 北東部・北部で転入超過傾向
- 南部で転出超過傾向

【豊中市の人口動態】

- H17 以降の人口微増傾向
- 総合計画想定人口（平成 32 年度：35 万人）のズレ

人口動態の要因の把握

人口に起因する将来の課題抽出

第 2 章 移動世帯の移動・定住要因の検証 手法：転出者・転入者・転居者アンケート

《全体》

転出⇒ 仕事、同居、住居の狭さによる転出が多い
戸建てを購入しての転出も多い
居住年数 10 年未満での転出が多い
転出先は関東、大阪市、吹田市、箕面市

転入⇒ 仕事、住居の狭さ、結婚による転入が多い
通勤の利便性を求めている住居選択
賃貸の共同住宅への転入が多い
転入元は大阪市、関東、吹田市、箕面市

転居⇒ 住宅の事情で住宅購入しての転居が多い

共通⇒ 高い持ち家志向と本市の戸建ての価格や共同住宅の家賃への不満
公共交通の利便性に高い評価
日常の移動環境に対する低い評価
駐車場環境への不満が多い

《地域別》

北東部 ⇒ 共同住宅購入者が選択、交通・買い物と自然環境に評価

北部 ⇒ 教育環境重視の人が選択、小中学校及び医療体制に評価

東部 ⇒ 仕事の都合・通勤の利便性を重視の人が選択、自然等の環境に評価

中北部 ⇒ 一戸建て志向の人が選択

中部 ⇒ 全体平均に近い傾向

西部 ⇒ 居住費用を重視する人が選択、就職や進学による転入

南部 ⇒ 親戚・知り合いとのつながりによる転入、買い物環境に評価

《年代別》

20 代 ⇒ 結婚による引っ越しが多い

30 代 ⇒ 教育環境と通勤の利便性による住まい選択

40 代 ⇒ 仕事の都合が特に多い、教育環境に高い意識

50 代 ⇒ 全体平均に近い傾向

60 代 ⇒ 建物の老朽化による転出・転入、医療体制を評価

70 代 ⇒ 家族と同居のための転出・転入、介護や医療体制を評価

第 3 章 人口の推計 手法：コーホート要因法による推計

《市全体人口・世帯数（中位）》

区分(年齢)	H22国調	H27	H32	H37	H42	H47	H52
年少(0～14)	53.9	53.8	50.4	45.1	39.0	35.6	34.0
生産年齢(15～64)	249.6	242.8	236.9	231.6	221.9	205.5	185.0
高齢者(65歳～)	85.8	100.5	106.0	107.2	110.7	116.9	124.6
人口合計	389.3	397.1	393.3	383.9	371.6	357.9	343.6
世帯数	166.7	172.0	173.3	171.8	168.5	164.1	159.1

単位：千人・千世帯

《地域別人口》

地域	H22国調	H32	H42	H52
北東部	49.9	54.7	51.4	47.9
北部	52.0	53.5	52.2	49.6
東部	42.7	43.7	42.2	39.9
中北部	87.1	87.4	83.2	77.3
中部	78.1	77.6	73.1	67.2
西部	17.4	17.2	16.1	14.6
南部	62.2	59.3	53.5	47.1

単位：千人

《総括》 将来的には人口は減少していく。出生数の増加・維持につながる施策が重要。
南部地域・西部地域では人口減少が進む。

第 4 章 各行政分野における課題の抽出

高齢者福祉・地域福祉

- ⇒ 健康寿命延伸、医療と介護の連携、無縁化に対応

子育て

- ⇒ 保育ニーズへの対応、ワークライフバランスの確立

学校教育

- ⇒ 学校規模のバラツキの解消、小中一貫教育の推進

産業振興

- ⇒ 事業者の新たな取組みや担い手づくりへの支援、豊中ブランドの発信

雇用

- ⇒ 労働力参加できていなかった層の労働を促進、自立就労・再チャレンジ支援

施設・都市基盤

- ⇒ 公共施設の機能再検討、人にやさしい道路環境づくり

住宅

- ⇒ 既存住宅ストックの有効活用

環境・エネルギー・上下水道

- ⇒ ごみ処理・上下水道施設の適切な更新、豊中市らしい循環型社会・低炭素社会づくり

歳入

- ⇒ 市外からの転入の促進、自主財源の創出

歳出

- ⇒ 中長期的な財政シミュレーションに基づいた歳出の伸びを緩和する取り組み

《総括》 年少・生産年齢人口比率の低下、高齢者人口比率の上昇が問題。生産年齢人口を中心とした転入促進策が必要。

人口減少・少子高齢化によるまちの活力の低下

- 子育て支援施策などは重要だが、人口減少に歯止めをかけることは容易ではない
- 人口が 1 人減少すると平均 121 万円程度の消費の機会が喪失

転入人口の増加・維持

- 転入、転出ともに移動者数が縮小
- 近隣市も含めると移動者数は未だ多い
- 転勤世帯・新婚世帯に選ばれている都市である本市の魅力
- 転入人口増は、将来の定住人口減に対する歯止めとなる

対応策

i. 市外への魅力などの発信

- 関東地方から転勤してくる世帯や大阪市・吹田市などで働いている世帯への展開
- 近隣で結婚を考えている世帯への展開
- 首尾一貫性、継続性が大切

ii. 都市の更新

- 南部地域・西部地域の持つポテンシャルや魅力を活かした都市更新の誘導
- 東部地域における賃貸住宅などのストックや周辺環境の魅力維持
- 都市更新は転入を促進し、地域を潤し、活力を保つ源泉

iii. 選択と集中による各分野施策の推進

- 限られた財源のもとで、多様化・高度化していく行政ニーズの中から、「本当に必要なことは何か。」各分野において見定め、着実に施策展開
- 本市の市内外からの信頼を高めていくことが大切